

第 1 次 N E X U S プラン実施方針（変更版）

本市の小中一貫教育と学校規模等適正化の方向（N E X U S プラン）を推進するための今後の取り組みについては次のとおりとする。

1 . 小中一貫教育の実施

平成 2 4 年度から市内全ての小・中学校において、小中一貫教育を全面实施することとする。

なお、平成 2 0 年度以降の主な取り組みについては、以下のとおりとする。

小中一貫教育全面实施に向けての取組

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
国	新学習指導要領（改訂後）				小学校開始	中学校開始
宇治市	小中一貫教育推進協議会	小中一貫教育全般について検討				
	学校運営専門部会	学校運営体制、指導体制について検討				
	教育課程専門部会	カリキュラム、教育課程編成について検討				
	「（仮）第一小中一貫校」専門部会	（仮）第一小中一貫校の開設について検討				
	小・中学校	研究指定校（2つの形態）	小中一貫教育の実践的研究			
	その他の学校		研究校を参考に実践的研究		カリキュラム 試行実施	全面实施

2 . 小中一貫校の整備

小中一貫校を整備するにあたっては、耐震化や老朽化対策等の学校施設の整備と整合を図る必要がある。

とりわけ宇治小学校は、市内で一番古く、かつ最も I s 値が低い校舎を有していることから全面改築を行うこととしたが、その改築事業においては、小中一貫教育を進める上で課題となる分散進学の是正や学校規模適正化検討懇話会答申で示されている中学校の新設についても検討を行ってきた。

こうした検討の結果、宇治小学校の改築に合わせて中学校を新設し、両校にて小中一貫教育を実施する（仮）第一小中一貫校を平成 2 4 年度の開校に向けて整備していくこととした。

なお、平成 2 0 年度以降の主な取り組みについては、以下のとおりとする。

（仮）第一小中一貫校整備のスケジュール

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
小中一貫教育推進協議会 「（仮）第一小中一貫校」専門部会	施設整備について	→				
施設整備	基本構想・設計、実施設計		→	建設工事	→	開校
			↑ 連携			

3. 学校規模・学校配置の適正化

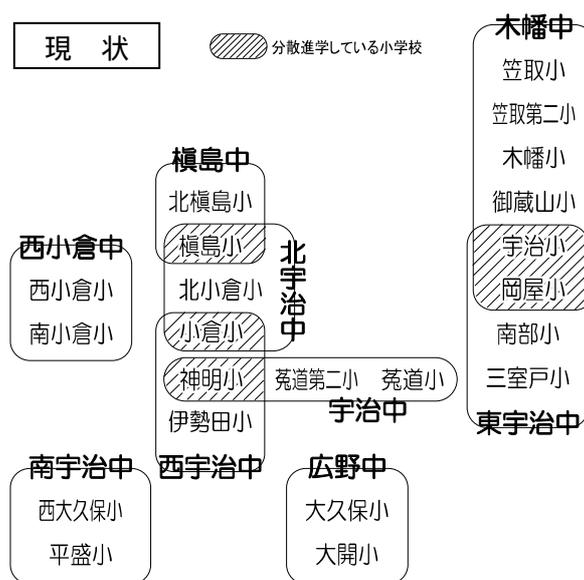
現在の児童・生徒数推計によると、南宇治地域と西小倉地域において、複数の学年で学年単学級の状態が将来的にも続く予想される小学校がある。

こうしたことから、両地域の小学校においては学校統合や通学区域の変更を行う。学校施設の耐震化は平成25年度までに完了するとしていることから、統合校の耐震改修は平成25年度までに行う。

ただし、これらの小学校の統合を具体化する際には、保護者・地元住民等の意向も踏まえ、改築等による小中一貫校整備を視野に入れての検討も行う。その結果、小中一貫校を整備する場合には、統合対象校の耐震改修や大規模改造は行わない。また小中一貫校開校が平成26年度以降となる場合には、耐震化計画の期間内には具体的な年次計画を示す。

また一方で、現在の児童・生徒数推計によると、御蔵山小学校において将来的に過大規模(31学級以上)の状態が続くと予想されるため、通学区域の変更を行う。

なお、他の地域については、宇治小学校の小中一貫校化や南宇治・西小倉両地域での成果を踏まえた上で、児童・生徒数の推移も見定め、小中一貫校整備、分散進学 of 是正の方策等について、後年度に改めて検討していくこととする。



4. 学校施設の整備

学校施設耐震化計画や第2次学校施設整備計画に基づき、総合的かつ計画的に整備を行い、新しい教育に対応する学校施設の整備を目指していく。

5. その他

地域と教育委員会が一体となって、NEXUSプランを推進するために、保護者や地域住民への情報公開と情報の共有化を図ることとする。

なお、国・府の動向や社会情勢の変化、市の財政事情などにより、これらの取り組みを見直すこともある。